

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800064		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	馬瀬グループホームいきいき		
所在地	岐阜県下呂市馬瀬惣島1518番地		
自己評価作成日	平成28年6月15日	評価結果市町村受理日	平成28年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosoCd=2192800064-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年7月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな土地柄を生かした外出支援・花見・山菜採りなど。また、地域特有の行事として、花もち作り(迎春準備)やホウ葉寿司作り(初夏の季節料理)などを、ゲスト参加で実施している。 ・昨年から今年にかけ、2名の方の看取りを行った。ご家族からの「住み慣れた場所で看取って欲しい」との意向を取り入れ、主治医と連絡を取りながら看取りを行った。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、豊かな自然に囲まれた環境に立地している。秋は、居ながらにして紅葉狩りができ、春は、花見や、自然に生えた山菜取りに出かけ、落や朴葉を利用した季節の料理作りを楽しんでいる。地域の高齢者は「介護サービスの世話にはなりたくない」と思っている人が多かったが、一度訪れてもらったところ、このような所なら「是非世話になりたい」との気持ちに変わっている。事業運営は、地域力を活かし、今年度は、新入職員2名を迎え、管理者を中心に、常に前向きにやりがいを持って、取り組んでいる。更に、職員一人ひとりが、自己研鑽に努め、役割を認識しながら、利用者の満足と笑顔、そして、地域に安心と輝きを提供している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をステーション内に掲示し必読、確認し利用者の生きがいにつなげている。	理念は、事業所内の目立つ位置に掲げ、毎朝、復唱をしている。職員は、介護の専門性を発揮し、地域住民やボランティア、家族とも連携し、協力しながら、利用者の安らぎと、ゆとりのある暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃活動や祭礼に参加するほか、PTAの資源回収にも参加している。また、職員が消防団に所属し、活動している。	地域とは、地区の清掃活動や資源回収、事業所の行事などを通し、日常的に交流をしている。選挙には、地域の投票会場に出かけている。介護相談会では、家庭での介護の悩みを聴くなど、親密なつきあいができている。	介護相談の会場は、地域の人達の便宜面から外部に設けている。相談を兼ねて、事業所を見学したいとの要望にも応じられるように期待をしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所単独で介護相談会を開催し、ニーズの把握とともに地域の方からの相談に対応した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設運営推進会議には、利用者代表、家族代表、知見を有する方、行政関係者に出席いただき、事業の取り組みや利用者の状況を説明するほか、委員から意見や要望を拝聴し、事業運営に生かしている。(平成28年度からは、2か月に1回開催)	会議は、2か月に1度開催している。運営推進会議の趣旨やサービスの取り組み等を出席者に説明し、併せて、職員不足の課題や待機者情報などで意見を交換し、事業運営やサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定に係る訪問調査時には、担当職員と情報交換を行い協力関係を築いている。	市の担当課へ直接出向いて、事業所の現状を伝えている。担当者からは、運営推進会議で、介護保険法の改正や特例入所の説明を受けたり、行政関係の研修情報提供を得るなど、緊密に連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関・窓・共用棟への通路扉を開放し、自然治癒力を生かせるよう、拘束のないケアに取り組んでいる。	法人内に、身体拘束廃止委員会があり、拘束をしないケアを実践している。自由に行き来できる通路の適所には、座って休めるコーナーを設けている。絵本やマッサージ機が置いてあり、心身を休められるような工夫がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行い、職員間で確認しながら虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に必要がある方について、身元引受人に説明し、理解をいただいているほか、成年後見制度についても説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務担当者が自宅に出向き、時間をかけ丁寧に説明し、理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に変化が見られる時は、詳細を家族に伝えるほか、意見箱の設置や面会票に意見記入欄を設け、また、面会の際は利用者の様子を家族に伝えるなど、意見の集約を図っている。しかし、本音の意見を集約できているかが不安である。(田舎では、「預かってもらっている」という意識があるため、面と向かって意見を言いにくいのではないか。)	職員は、家族が、気楽に意見や希望が言えるよう、機会づくりに取り組んでいる。また、毎月送る「便り」と共に、本人の笑顔の写真入りで、個別の手紙を添えている。訪問時や夏祭りなどの機会には、家族の本音を引き出すように努め、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議には、ユニット全職員が参加し、提起された問題点や課題の検討を行っている。また、施設全体でのリーダー会議では、働きやすい職場づくりやユニット内での問題・課題について、他のリーダーにも一緒になって考えてもらっている。	外部研修会参加職員による伝達研修で、ケアの見直しや効率的な記録法を取り入れている。新入職員には、勤務意欲の向上のために、食事会を兼ねた歓迎会を行い、気づきや意見が出やすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員については、人事考課を通して、また、非常勤職員についても情意目標の達成度合いを評価し、給与水準の引き上げに努めている。なお、評価の際、面談により各自の目標等について確認を行っている。なお、研修に要する費用は、法人負担としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などの機会を通じ、参加を促している。また、トレーニングの一環として、ひもときシートを使った勉強会を開催した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や市内団体が開催する研修会に参加し、情報の交換などを通してサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査時、話しやすい雰囲気を作り、本人の言葉や思いを汲みとりながら、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや入居前の事前調査時、家族の希望や要望を把握し、提供するサービスに取り入れるとともに、安心につながるような声かけを行い、本音の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の両方の思いを汲みとり、優先順位を見極め、サービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の好きなこと、得意なこと、出来ることの把握に努め、一緒に共同生活を送れるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月作成する家族へのお手紙で、近況を伝えるほか、衣替えや日用品の購入などについて連絡を取り、来訪機会を作ること家族との関係を密にするよう努力している。さらに、本人・家族とも安心して外出や外泊が出来るよう、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に近所の方や友人が面会に来て頂けるよう、雰囲気づくりに努めている。また、散歩を兼ね併設する小規模特養での交流を日課に掲げ、出会いを通じた関係継続の支援を行っている。	家族や友人が手作りの食事、野菜、米などを持参し、一緒に食べながら語り合い、次の訪問につないでいる。家族の協力を得て、自宅周辺をドライブしたり、地域の敬老会に出席し、馴染みを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	併設の小規模特養の利用者とも、一緒に行事に参加したり、ユニット内で気の合う仲間同士で居られるよう、配席を考え、孤立感を持たれないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も面会に伺ったり、電話で様子を伺うことで、新たな入居先での生活がスムーズに移行出来るよう、家族や事業者との連携を取っている。また、退居時には、施設での生活を記録した写真アルバムを贈り、家族に安心感をもっていただけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを日々の関わりや傾聴により把握し、毎月開催するユニット会議において情報の把握と共有に努めている。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、職員間で共有をしている。さらに「ひもときシート」を活用して、より深く、個々の趣味や思い、こだわりを見つけ、その人らしい暮らし方ができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査時、本人や家族、担当介護支援専門員から情報を集めるほか、入居後の施設内での生活においても、さまざまな会話から、利用者の生活歴や家族も気づかなかつた情報の把握に努め、不安の解消に結びつける。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りなど、職員の気づきを記録に残し、全職員が見落としの無いような体制作りと現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が、毎月、課題についてのモニタリングを行い、家族や本人にも意向確認を行い、それらの内容をサービス担当者会議において検討し、ケアプランに反映させている。	利用者や家族から、意向を確認し、毎月モニタリングを行っている。それらを、ユニット会議や担当者会議で検討を加え、利用者が、日々、生きがいを持って暮らせるよう、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと日課表から、日々のケア項目を取り入れ、介護記録につなげている。細かい記録の積み重ねを基に、次のケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節やその日の天候に合わせて、外出行事を組んだり、食事では、利用者の朝の様子でメニューを変更したり、その時々ニーズに柔軟に対応している。また、行事内容によっては家族やボランティアに協力をお願いし、夏まつりや迎春準備といった行事に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内の花壇で採れるフキノトウやフキ、ヨモギなどを、食事やおやつに活用し、季節を味わうほか、地元ボランティアや高校生とも行事を通じて交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の小規模特養嘱託医を主治医に依頼し、訪問診療はもちろん、いつでも往診が受けられるよう支援している。	かかりつけ医は、訪問診療専門の医師で、常時連絡が取れ、きめ細かな対応で、利用者や家族、職員の信頼と安心を得ている。急変時も連携を密に取り、適切な医療が受けられるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の小規模特養看護師が、定期的に勤務に入り、健康状態の把握に努めているほか、主治医への情報提供はもちろん、職員や家族へのアドバイスも行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリ、看護サマリで情報提供を行っている。また、救急搬送時などは主治医が受け入れ先病院に情報を送り、スムーズな受入につなげている。なお、救急搬送時、救急車に職員が同乗し、家族に引き継ぐまで病院での対応にあたっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合や終末期の指針を説明し、同意書を交わしているが、実際に看取りの状況が生じた段階で、医師から家族への説明の機会を設けるとともに、改めて指針の内容を説明し、事業所として出来ることの説明や、本人・家族の希望を把握しながら、ケアプランの作成、職員の対応を行っている。	重度化や終末期に向けた方針を、入居時に説明している。また、利用者の状態によって、段階的にも説明を行なっている。特に、終末期には、医師から、家族に解り易く、納得できるよう説明があり、職員と家族が協力しながら、看取りを行うことができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員参加の救急救命訓練を、救急救命士の指導を受け、毎年実施している。また、応急手当についても医療職が講師となり、勉強会を続けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定と日中想定の方針避難訓練のほか、下呂市の防災訓練(地震想定)にも参加し、災害発生時の避難行動について確認を行っている。非常食の備蓄は、50人5日分を準備している。また、地元惣島区と災害時相互応援協定を締結し、施設側からは避難場所、非常食、資機材の提供を行うほか、地元からは人的支援が受けられるよう、協力体制を築いている。	事業所は、過去に水害で、停電や交通網の寸断被害にあった経験から、防災訓練や地域との協力関係作りを、今まで以上に真摯に取り組む、備蓄等を万全にしている。事業所のすぐ近くに消防団の詰所もあり、密な連携が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、一人ひとりの人生史を把握し、誇りやプライバシーを損なわない丁寧な対応をしている。また、時には方言も交え、これまで過ごしてきた環境に近づけるよう努めている。	管理者は、新人職員の丁寧な言葉づかいから、それを「学び」とし、申し送り時や会議で全職員に伝え、徹底を図っている。トイレや入浴介助では、特に、羞恥心に配慮し、常に、一人ひとりを尊重したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の意向を表しやすい雰囲気を作り、その中で選択の出来る声掛けや働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調の把握とその日の気分を伺い見極めながら、一人ひとりのペースや希望に合わせている。安心・安楽に過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は、本人に確認しながら一緒に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や郷土料理を取り入れ、作り方をゲストからお聞きし、一緒に食事作りを行っている。食事の準備や食器拭きは、全員で行っている。	利用者に、好みのメニューを聴き、畑で採れた野菜や自然に生えている落などを、食材に取り入れている。食事の準備や片付けは、利用者と一緒にいき、会話も弾み、楽しい食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設特養の栄養士にメニューの基本を作って頂き、栄養バランスを確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを欠かさず行い、食前には口腔体操を欠かさず行っている。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人ひとりの排泄パターンをつかみ、声掛けをしながら失敗を防いでいる。また、リハビリパンツから布パンツ+パットに改善できた方もみえる。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な声かけと誘導により、失敗を減らせるよう、支援をしている。トイレでの排泄が習慣となり、リハビリパンツから布パンツに変わった人が多く、利用者の可能性を信じ、自立に繋がった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳とヨーグルトの提供のほか、好きな物で水分摂取を続けている。(一日の目標量、1,500cc) また、散歩は全員が毎日行えるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じた時間に入浴して頂き、夜間入浴も実施している。入浴回数は週2回と決めず、出来る限り要望に応え入浴を楽しんで頂いている。	入浴日や時間帯は、利用者の希望に沿って支援をしている。浴室は、落ち着きがある反面、明るさへの要望があった。新しい電球に替えたことで、以前にも増して、ゆったりとした気分で入浴を楽しめるようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゲスト個々の生活習慣の把握に努め、自分のペースで休んでいただけるよう努めている。また、睡眠に関しては「暑がり」「寒がり」といった体質の違いもあることから、寝具の準備を臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々のゲストの状況を記録する介護記録に、薬情報提供書を挟み把握している。些細な症状の変化も記録に残し、体調の変化とともに確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、お膳拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、雑巾縫いなど、ゲスト一人ひとりに役割を持っていただくとともに、金魚を眺めたり運動がてら散歩を楽しんで頂いたり、気分転換の機会をもつていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせ、戸外への散歩の機会を作り、気分転換を図り自然治癒力を高められるよう支援している。また、家族には買い物や食事、病院受診など、どんな機会でも良いので、出かけて頂けるよう協力をお願いしている。	気の合う者同士が、周辺を散歩したり、1周270メートルもある廊下を、安全に歩くことができるよう工夫をしている。畑の草取りや外気浴のほか、家族の協力によるドライブ、外食なども支援をしている。	

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、数名の方はお小遣いを所持されてみえる。外出行事では、買物をコースに組み込み、支払も自身で行って頂くよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を保持されているゲストは、知人・友人や家族と連絡を取り合い、つながりを大切にしている。また、スタッフと一緒に家族などに電話をされるゲストもおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはソファを設置、また廊下の小だまりも活用しながら、休憩できるスペースを確保している。施設内には、写真や塗り絵などの作品を飾り、ご自身の居場所づくりに工夫している。戸外には、プランターで花を飾り、食堂横の中庭にも花木を植え、季節を感じられるよう工夫している。	職員が持ち寄った季節の花が、各所に飾ってある。廊下の窓から見える段々畑の野菜から、季節が感じられる。利用者の作品を額に入れ、写真は、模様のある紙に貼って、利用者目線に飾っている。適所に、くつろげるソファを置き、小コーナーで居場所づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	併設する特養の知り合いの方が出向いてこられたり、こちらから出向いたり、日常的に交流を行っている。特に、気の合う方と過ごされる際は、スタッフが飲み物を準備し、時間の許す限り安心して過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは、家庭で使い慣れた家具や道具を持ち込んでいただき、居心地良く過ごして頂けるよう、入居前に打合せを行っている。また、家族と一緒に泊まりたいと希望される場合は、簡易ベットを準備し、食事(有料)も提供し、家族で過ごしていただける環境を作っている。	居室には、使い慣れた家具や寝具、衣類掛け等を持ち込み、使いやすく配置をしている。家族の写真や位牌等も適所に置いてある。針山付きの「くけ台」からは、利用者の生活感が漂い、その人らしい居室環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所が分かるよう、目印や大きな文字での表示を施し、出来る限り自立した生活が遅れるよう工夫している。		